

令和元年度 第1回ふれあい懇談会懇談要旨

■開催日時 令和元年5月26日（日） 14時～16時

■開催場所 近隣センターこもれび

■参加者 18名

■出席者 星野市長、廣瀬総務部長、渡辺企画財政部長、柏木市民生活部長、
増田環境経済部長、古谷建設部長、伊藤都市部長、他管理職 15人

■懇談要旨

市 民：文化交流拠点施設は建設を行っても、市が破綻しないということであれば良いと思います。市の財政状況と照らし合わせて、確実にできるということを前提に何を審議しているのか示してほしい。

企画財政部長：文化交流拠点施設につきましては、これからまだまだ議論をしていくものです。クリーンセンターについては、実際に始まっておりますので、進めていきます。治水対策事業も出来るものから順次すすめております。文化交流拠点施設は、まだ建設すると決定したわけではございませんので、皆様の色々な意見を聞いてまいります。

市 民：建設出来ないものを議論してもしょうがないので、現在の財政状況等を加味して、文化交流拠点施設を建設することが出来るのか、出来ないのかをお聞きしたい。

市 長：建設するのか、しないのかは市民の皆様の意見を聞くこととなります。まずは、文化交流拠点施設があるか、いないかの意見を基に判断するためにお話をさせていただいております。建設出来ないかといいますと出来ない訳ではありません。但し、事業に優先順位をつける必要があります。皆様に意見を聞いて、やりくりをして出来る範囲をお示ししていくということでもあります。文化施設につきましては、文化団体等多くの団体から建設の必要があると言う多くの声をいただいております。しかし、文化施設を1回も利用していない方からは必要ないという声をいただいているのも事実です。このように両方の意見を聞いている状況であり、まだまだ、意見が1本化された状況ではないという現状をご理解いただきたいと思います。

市 民：我孫子には、けやきプラザがありますよね。あそこにホールがあるのではないですか。

市 長：けやきプラザは、県と市の合築施設で1階～7階が県の管轄で、8階以上が我孫子市の管轄となっておりますので、2階のホールは市のものではございません。

市 民：私は文化交流拠点施設は、必要だと思っています。今回の建設は、新規ではなく我孫子市民文化会館の代わりということで、再建であります。また、資料の中で、文化施設が建設されることで、人々の感性が磨かれるとありますが、我孫子市民は元々感性が豊かであります。それが施設が無くなったことによって、感性も衰退してきていると考えます。クリーンセンター建設は百数十億円かかるということですが、コストダウンすれば文化会館を建てる資金は生み出せると言っていた方がいましたが、本当に百数十億かかるのか。また、ある方は全国十萬都市の中で、文化会館等がないのは我孫子市だけだと言っておられました。私の感覚でもそれに近いのではないかと考えております。我孫子の魅力を高めるためにも文化会館は必要と考えます。

市 長：積み立て額が16億円ですが、東日本大震災やオリンピックで、人件費や材料費が高騰しております。ただし、被災地となった我孫子市に国からの交付金等と財政状況を加味するとクリーンセンターは建設出来る予定です。クリーンセンター建設の158億円も予定額ですので、実際にはこれよりも安くなると考えております。ただ、そういった中で、残念ながら文化施設建設の補助金というものが見つからずにいます。市としては、皆様からいろんな機能を取り入れてほしいと言う要望がありますので、建設することになった場合は、賑わいづくりの中心となり、いろんな機能を取り入れた文化交流拠点施設にしてはどうかと考えており、様々な意見を取り入れていく考えです。

市 民：文化施設については建設及び検討も中止してほしいです。理由としましては、我孫子市の財政状況は厳しく、銚子市に近い。公園の樹木管理すらできない市である。水害が起こった時に、治水課が点検する際に市民の安全を守る資材があるのですが、それをチェックすると在庫なしと言う状況です。市民を守る資材も購入出来ていない。また、我孫子市は高齢化も多くなってきていて、納税収入も減ってきています。このような状況の中で公共施設を建てるなど、おかしいし、将来の子ども達に負担をかけてはいけません。治水事業でも20年遅れている地区があり、市民生活の安全な保障もできていないのに、時間とお金を使うようなことはしてほしくない。

市 民：治水事業の事で担当課の意見も聞きたいのですが。

治水課主幹：費用がなかなか捻出出来ない中で、どうしても優先順位をつけて事業を進めなければならない状況です。課としては、出来るものから進めていく考えです。

先ほどの、点検に行くときに資材がないという点ですが、何の資材のことを言われているのか、後ほど、確認させていただければと思います。

浸水対策については、事業を進めていく中で効果はでております。

布佐・若松でポンプ場が完成しており、柴崎地区の対策としては、国の方で樋管工事を行っており、末端の整備が完了しております。ただし、浸水対策というのは、時間がかかってしまうので、国の補助金等を活用しながら柴崎や泉地区の水害解消の効果ができるように努力してまいります。

市 民：柴崎に排水路が出来たととしても、栄と泉の水害は解消出来ないという解析結果をいただいております。どのように解消していくのか方針をお聞きしたい。

治水課主幹：今、栄地区では、浸水箇所を中心に雨水の流れなどの調査を行っており、局所的な浸水被害が軽減できるよう緊急浸水対策工事を行っていく予定です。

市民：浸水計測で同じ水位が出ているのにもかかわらず、床上・床下浸水のカウントを行っていない状況で浸水が少なくなっていると言っています。

治水課主幹：我々としましても、市民安全課で取りまとめたデータをもらって整理しております。何もしていない訳ではなく、測量調査を行っており、一部の側溝で逆勾配になっている問題も発見できましたので、今年度は緊急浸水対策として側溝の工事を行っていく予定であります。本格的な工事は出来ないにしても、少しずつでも浸水被害が軽減できるよう緊急浸水対策工事を行っていく考えであります。

市 民：栄のところで床上浸水があったと推測できる水位計の記録が7回あるのですが、その内3回しか浸水被害なかったと市民安全課が言っております。全然、連携がとれていないではないですか。

治水課主幹：私たちもいただいたデータを基に整理しております。水位計の記録ではここ十年間で一番深かったのが、55cmでした。他の地区では90cmというところもある中で、もちろん私共も決して低い水位であるとは思っておりません。

市 民：栄は、40cmで床上浸水が起こるのですよ。

市 民：この話は、関係者が少なく詳細な問題があるので、会議の後にじっくり話し合われた方が良いのではないのでしょうか。

市 長：私が就任してから、治水対策で80数億円かけております。我孫子根戸地区を中心にして時間84ミリのゲリラ豪雨が降った際に、このエリアは約90件の床上浸水がありました。そこで、ここに予算をかけて工事をしたことにより、2年前の81ミリ降雨では、床上浸水は18件に減りました。ただ、まだ床上浸水は18件あるという現実を踏まえて、治水対策事業を進めてまいります。我孫子市全体では、時間50ミリの降

雨に対する対策を行うのが都市部での排水対策です。時間降雨27ミリで床上浸水がある布佐地区では、30億を超える予算を投入してポンプ場を造りました。これによって、41ミリの雨でも床上・床下浸水はありませんでした。市としては、優先順位をつけながら工事をしております。ただし、集中的に大きな工事をいれていかなければ、なかなか進まないというのが、現実です。今、天王台6丁目の方に待っていただいているのは、本管がまだ入っておりませんので、低地に貯留管を入れるという前段の工事を行っているからです。下流から上流への工事を少しずつ進めていくしかないような状況です。水害対策工事は、長い年月と費用がかかることから、着実に進めていく考えであります。ご理解ください。

市民：文化交流拠点施設の建設は、排水事業の後ということではよろしいですか。

市長：それは、今答えられることではありません。

市民：市では、何ミリ程度の雨であれば耐えられるのでしょうか。

治水課主幹：下水道計画に沿って進めておりますが、5年確立降雨というもので時間にして50ミリ程度の降雨に耐えられる計画で行われています。

市民：ゲリラ豪雨の一般的降雨量とそれに対応できるかについてお聞きしたい。

治水課主幹：一般的にゲリラ豪雨とは時間80ミリで、我孫子では平成19年に時間84ミリの降雨があり、翌年104.5ミリの雨もございました。ご意見の中にはどんな雨量にも耐えられるようにしてほしいという話もありましたが、通常工事の倍以上ではすまない工事費がかかり、対応はできません。そういった地区の方々は、ご自宅の前に土嚢を置くなど、市民の皆様自身も協力してくださっております。

市民：そういったことは、被害に会っている方々には説明をしているのですか。

治水課主幹：はい。説明しております。

市長：84ミリと104ミリの豪雨となった地区では、100件弱の方々が床上浸水しております。その周辺の方々は、このエリアが水害の被害に遭いやすいと考え、1メートル地盤を高くして建設しているにもかかわらず、床上浸水が起きました。通常の降り方では対応できますが、短時間での集中豪雨では排水能力が対応できません。104ミリにも対応できる雨水管となると全ての管を交換しなければならなくなり、莫大な費用がかかります。なお、着実に工事を進めた結果、治水対策の効果がでたことで、まだ工事が遅れているエリアの方も理解をしてくれるようになりました。

市民：我孫子市内で水害に遭いそうな世帯は、何世帯ぐらいあるのでしょうか。

司会者：詳細なデータとなるので、会議終了後担当者とお話ししてください。

市長：ゲリラ豪雨のように、局地的に短時間で降られると時間何ミリが対応できるかは、はっきりとは言えません。

市民：文化施設がほしいという方の意見が聞きたいと言うので、私の考えをお伝えします。私は、莫大な費用をかける必要はないから、1,500人入れるホールをつくっていただきたいと思っております。お金が無いなら無いレベルの音響でも良いと思っております。出来る範囲で建設をしてほしいと考えています。なお、今回の資料ですが、10年かけてやっとここまでできたのですが、こういったプランをつくるのに、どれだけ人件費をつぎ込んできたのかわかりませんが、今回の資料の中に、スケジュール表がない。いつまでに、どのように回答するのかは決めてほしい。期限がはっきりしていないスケジュールはありません。それと、よく若者に借金を残すことがないように言われますが、施設は残り、若い世代もずっと利用できるわけですから、借金ではないと私は思います。

市長：今言われたように、借金は残るでしょうが施設も残ります。水害対策のポンプ場もそうです。ポンプ場も財産となるのです。ただ単に借金が残ったと捉えるのか、水害が減ったと捉えるかは、皆様の考え方になると思っておりますが、まだまだ水害の解消はできておりません。耐震補強工事では学校、保育園が終わっていない中で、市民会館が先という意見もありました。学校工事などで子供達や学校関係者からは文化交流拠点施設の建設を望む声は上がっていました。優先順位ということでは、子ども達の命を守るということでは、耐震補強工事が優先ということで、順位を決めましたが、毎年こういった、ふれあい懇談会などで皆様の意見を聞いていこうと考えており、一つずつ皆様の意見を集約していきたいと思っております。クリーンセンターについては、老朽化が激しく、早急に改修工事は必要であることから優先順位をつけさせていただきました。

文化交流拠点施設は、単にホールだけではなく、いろんな人がこのエリアにきてくれるように、またホールを使わない人も楽しめるような場所にしたいと考えています。ギャラリーや郷土資料館のようなものも取り入れてほしいという意見もありました。こういった意見から残すものを吟味していきたいと考えていますので、もう少しお時間をいただきたいと思っております。貴重なご意見ありがとうございました。

市民：今回のふれあい懇談会では、有意義な意見が出て、文化交流拠点施設建設の反対派、賛成派の両方の意見がわかり、とても良かったと思っております。良い勉強になりました。

市長：ぜひ、地区の方々にもいろんな意見を出してもらいたいと思いますので、お話ししてみてください。

市民：下ヶ戸地区の下水道計画を順次進めているような話を聞いているのですが、西側の方からスタートしたようですが、どのような計画で、いま、どのような状況であるのか分かりませんので、教えていただきたいと思います。

下水道課長：下ヶ戸地区の北側ですが、2021年度から設計を始めて、10年ぐらいの年月を要すると思われま。都市計画事業として下水道事業は進めております。これは、県の認可事業として進めておりますが、当初計画ですと下ヶ戸の地区においては、経済効率が不効率という判断を平成22年度に行いまして、認可計画をかえて、出来るだけ早急に行えるように、排水整備計画を見直した経緯があり、2021年から設計に着手して順次進めているところです。

私が申し上げたのは、下ヶ戸の北側の整備計画です。具体的に言いますと川村学園から南側に整備を進めていくということで川村学園の方が低地ですから、そちらの方に流す計画に見直したということです。西側地区におきましては、処理区分が違いますのでそちらは進めております。

市民：出来れば、そういったところを詳細に住民にアナウンスしていただければと思います。

下水道課長：最大限、ご説明させていただきます。個別には、詳細にお話をさせていたてておりますが、まだ、工事が始まっていない地区につきましては、現状の計画をお伝えさせていただきます。

市長：下水道工事が進んでいないところは、まだまだございますが、せめて区画整理したところには、下水道を通すようにしています。残念ながら、本管がきていないと進めませんので、本管に近い所から少しずつですが順次進めております。お時間がかかって大変申し訳ございませんが、ご理解くださいますよう、よろしく願いいたします。

市民：3ページの歳入の確保について、どういう事であるのか。詳細をお聞きしたい。

企画財政部長：ふるさと納税ですが、これは我孫子市に寄付していただけるよう、いろんな取り組みをしております。ふるさと納税は、ご自分で寄付の対象を選べるのですが、クラウドファンディングは、インターネットを通じて行うもので、市の方で事業の指定をさせていただきます。それに対して賛同を得て寄付を集める手法です。去年、我孫子市では、はしご付き消防自動車を更新しました。1台約2億円ですが、これについて

は、目標1千万円のクラウドファンディングを行いました。かなり高い設定でしたが、全国から250万円の寄付がございました。寄付をされた方には、感謝の意を込めまして、はしご付き消防自動車の体験乗車をしていただきました。このように、大きな事業を行う際には、多くの皆様からの寄付についても、事業の財源とさせていただいております。

市 民：交通安全についてです。先日の交通安全委員の総会の挨拶の中で、市長も大津市の交差点事故について、我孫子市にも危険な箇所があって、ガードレールよりもガードパイプの方が車が突っ込んできてもガードができると言っており、点検箇所を指示した言われてました。市役所前の若松交差点も手賀沼大橋を下って、スピードに乗ってくると、ピザのお店側にあたってしまうので、あそこは、早くガードパイプか、ガードレールをつけてほしいと思います。

市 長：我孫子の7割ぐらいが通学路になっていて、危険と思われる通学路は、毎年教育委員会や学校と現地を見て確認して、対処方法を検討しております。私もこの間通った時に、気付きました。管轄が柏土木事務所も含まれますので、協議してまいります。私もあった方が良く感じた場所ですので、指示して対応してまいります。

市 民：文化交流拠点施設ですが、市長から候補地になっているところが、賑わいづくりのスペースにするようなお話がありました。これだけ、多額の費用をかけるということですが、私の感覚では目玉になるだろうと思っております。そこに人が集まってくるかのポイントは、市外からのお客様をどれだけ呼び込めるかだと思います。ホールについても近隣のニーズを考慮しなければならないと思います。もう一点ですが、ホールを建てることについて私がお伝えしている要望なのですが、ホールをいらないと言っている方は、財源を気にされていると思います。財政が厳しい中で必要なかと必ずおっしゃいます。私も我孫子市の財政が破綻してまでも建ててほしいとは思いません。ただ、判断材料として財政、財源の問題を分かりやすく、何億財源があるだけではなく、これが市の財源にどのような影響を与えているのか詳細に説明しないと、市民の方々は判断出来ないと思います。今後も、説明される場合には、その辺を踏まえて説明していただきたいと思います。

市 長：文化会館をいらないと言っている方は、言われたとおりの理由があります。どのぐらいの建設費がかかり、どのぐらいの維持費がかかるのか。これを示してくれないと判断できないと言っております。そういった中で、選定場所も駅前という場所の他にも、

景観の一番良い所という2か所の選択の中、専門家のご指摘で、我孫子市は財源が少ないという点では民間がお金を出しやすい所ということで、選定していただきました。文化施設の建設には6億円ほど貯まっていますから、これを踏まえて、国からの補助となる財源。まだそのような補助金は見つかっておりませんが、そしてクラウドファンディングという多くの方々から募って、ご寄付いただいた方のメリットも考えながら、建てることもあると思います。ただし、まだ具体的な数字がわかっていない中で、先ほどの消防車の話でもありましたように、我孫子市に関係ない方でも、消防車に乗れるということで寄付をされた方がいらっしゃいました。そういうことを含めると、ホール以外での機能を含めることによって、ご寄付を頂けるのではないかと考えています。いろいろな面から財源の確保をみていきたいと考えております。2億円のはしご車に対して、250万円ですから、どのくらい集まるのかは未知数ではありますが、現段階では文部省関係からの補助等はないということが分かっております。それ以外での財源を探しながら、そして市民からの寄付行為を含めながら、ご指摘があった資金面の部分をお示しして進めて参りたいと思います。資金面の他市の情報などありましたら、ご連絡いただければと思います。

市民：市民会館を含め、いま建てることになったとしたら、何年後ぐらいに建つのでしょうか。

市長：今のところ、消防署の建て替え、それとクリーンセンターの建て替え、それを合わせるとあと5、6年で、それが終わると余裕が出てきますので、その時に文化会館が先なのか、学校が先なのかになると思われます。

市民：ずいぶん先でしょう。

市長：学校も建て方によると私は思います。今19校あります。その中でいくつかの学校が1学年1クラスです。小学校と中学校を一緒に建てる、いわゆる中高一貫教育みたいな建て方をしていくと経費は下がります。他市では例えば、プールを学校につくるのではなく、民間のプールを利用するなどの動きがみられます。これまでと同じものを造るという考え方は無くなってきております。いろんな形で工夫をしていくことが必要だと思っております。そういったことから、10年後ぐらいになると考えられます。設計などは同時期行えたとしても、建設は同時期には出来なということをご理解ください。